

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 28 年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	細野 祐司	会員番号	0034842
申請者の所属・職名	京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科		
出席会議名	The 2016 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting		
発表論文タイトル	Splicing factor proline/glutamine-rich (SFPQ) is a novel autoantigen of anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis/clinically amyopathic dermatomyositis		

実施結果:

私はこの度、平成 28 年度後期「Tadamitsu Kishimoto International Travel Award」を受賞し、アメリカ合衆国ワシントン D.C.にて開催された上記演題を発表させて頂きました。本学会はアメリカリウマチ学会(ACR)が開催する総会で、世界で最も規模の大きいリウマチ学会の一つです。関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎をはじめとする自己免疫疾患に関する基礎・臨床研究の最新の知見を得ることが出来ました。特に筋炎のセッションでは、米国のみならず欧州からも多数の研究者が参加しており、自分の発表内容についても長時間にわたり有意義な議論の場を持つことができました。

今回私は、治療抵抗性でしばしば予後不良の経過をたどる急性進行性間質性肺炎を高頻度に合併する抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎の血清中に新たに検出した Splicing factor proline/glutamine-rich (SFPQ) を対応抗原とする自己抗体について報告を行いました。これまで MDA5 はピコルナウイルスなどのウイルス感染のセンサーとして作用し、免疫応答を誘導することが報告されていますが、SFPQ についてもインフルエンザウイルス感染などとの関連性が示されています。抗 SFPQ 抗体の出現時期によって皮膚筋炎の診断時期に季節性を有することを示し、皮膚筋炎の発症や病態に何らかの環境因子が関与している可能性があることが考えられました。本疾患は特に本邦を含むアジア地域で認められますが、地域差・人種間での相違も背景にあることが推察されました。これらの点についても、発表の場で非常に活発な議論の場を持つことができました。

今回の発表を通して、今後も皮膚筋炎・多発性筋炎の病態解明に一層尽力尽力できればと考えております。

末筆ながら、本学会への参加に際し、多大なご支援を下されたJSIの先生方、事務局の皆様には心より感謝申し上げます。また、研究の御指導を頂いた京都大学医学部内科学臨床免疫学 三森経世教授、中嶋 蘭助教 ならびに研究室の皆様にも深謝申し上げます。